

《担当者名》冨家 直明

【概要】

講義及びアクティブラーニング、体験学習を通じて、スクールカウンセラーや教育行政にかかわる業務にはどのようなものがあるかを知るとともに、学校や教育現場における臨床活動の実際について幅広い知識の体系化と技術の習得を行う。

【学修目標】

教育現場において生じる問題とその背景に関する臨床心理学的理解
 教育行政、教育関連法規、内発的及び外発的動機づけ、自己効力感、原因帰属、適性処遇交互作用、セルフモニタリング、学習性無力感、不登校、学級崩壊、いじめ、非行、子どもの自殺など、に関する知識の獲得
 教育現場における心理社会的課題と必要な支援
 学業不振、スクールカウンセリング、キャリアカウンセリング、教育関係者へのコンサルテーション、アセスメント、チーム学校（多職種連携）、学生相談、緊急支援、健康教育など、に関する知識及び技術の習得
 自律発展的学習姿勢の確立
 自己理解を深め、自己研鑽を通じて自律発展的学習姿勢を獲得する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	教育行政と諸課題	学校設置の法体系、教育行政制度の仕組み、それらに関わる諸課題について概観する。	冨家 直明
2	教育行政と諸課題	学校設置の法体系、教育行政制度の仕組み、それらに関わる諸課題について概観する。	冨家 直明
3	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリングの理論と歴史を概観する。	冨家 直明
4	キャリアカウンセリング	キャリアカウンセリングの技法を体験する。	冨家 直明
5	キャリアカウンセリング	学校におけるキャリアカウンセリングの適用を知る。	冨家 直明
6	学校・教育心理学の知見	スクールカウンセリングに関わる学校・教育心理学を展望する。	冨家 直明
7	学校・教育心理学の知見	スクールカウンセリングに関わる学校・教育心理学を展望する。	冨家 直明
8	学校・教育心理学の知見	スクールカウンセリングに関わる学校・教育心理学を展望する。	冨家 直明
9	学校・教育心理学の知見	スクールカウンセリングに関わる学校・教育心理学を展望する。	冨家 直明
10	災害と学校	災害時の支援のあり方について考える。	冨家 直明
11	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
12	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
13	スクールカウンセリングの実際	スクールカウンセリングで用いられる面接、アセスメント、情報共有に関する技術を習得する。	冨家 直明
14	教育分野における公認心理師制度	公認心理師試験および同制度における教育分野の臨床活動の特徴を知る。	冨家 直明
15	教育分野における公認心理師制度	公認心理師試験および同制度における教育分野の臨床活動の特徴を知るとともに自律的学習の計画を立てる。	冨家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
 授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート（100%）

【参考書】

生徒指導提要（文部科学省）

【学修の準備】

1 授業回あたり2時間程度の自己学習時間を用意すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、臨床現場において人の尊厳を重んじた科学者・実践家として社会に貢献することが期待できる能力を修得するという臨床心理学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師としてスクールカウンセラーの経験を有する。

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としてのスクールカウンセラーの経験を反映させた授業を行う。